

核と共に生きる未来—
それは本当に可能か？



八戸クリニック街かどミュージアム上映会後援事業
「白マドの灯」

チェルノブイリ その後の世界

(2018年 / フランス / 90分)

2025年11月1日(土)

13:30 開場 14:00 ~ 16:30

映画上映とおはなし

おはなし：コリン・コバヤシ (フランス・ブルターニュ在住、フリージャーナリスト、著述家)

八戸市総合保健センター・大ホール

八戸市田向3-6-1

参加費：1000円 (前売：900円) (高校生以下無料)

チケット取扱店：ラピア チケットご予約は→

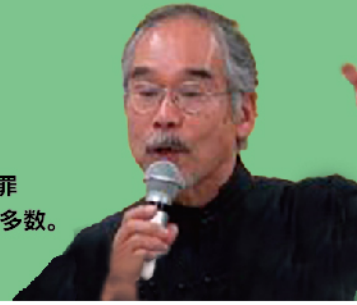


主催：フクシマ・六ヶ所プロジェクト
fuku6pro123@gmail.com

もういい加減に「原子力やめましょ！」

コリン・コバヤシ：1949 年東京生。1970 年渡仏以来、フランス・フルターニュ在住
美術家から活動を開始、その後、フリージャーナリスト、映像作家としても多面的に活動。
70 年代後半から反核運動に関心をもち、1986 年のチェルノブイリ原発事故以後、本格的に反核・反戦
反差別など社会運動にかかわる。

著書に『ゲランドの塩物語』（2001 年岩波新書、2002 年渋沢クロード賞現代エッセイ賞）『国際原子力ロビーの犯罪
チェルノブイリから福島まで』（2013 年以文社）、編共著に『市民のアソシエーション』（2003 年太田出版）等多数。



このドキュメンタリー映画「チェルノブイリ その後の世界」は、フランスの NPO「チェルノブイリ・ベラルーシの子供たち」が、
子供たちの医療に関与したベルラドの放射能測定をおこなった測定師や看護師などの証言を取材し制作したドキュメンタリーです。
フランス在住のジャーナリスト、コリン・コバヤシさんはこの映画の撮影にも関わり、「チェルノブイリ原発事故で、現在でも子供たち
や女性たちに影響が出ている。放射能が長期間に渡って被害を及ぼしている」と話す。

今、世界では残留放射能があっても気をつけて暮らせば汚染地帯でも楽しく暮らせるといったプロパガンダが中心になっています。

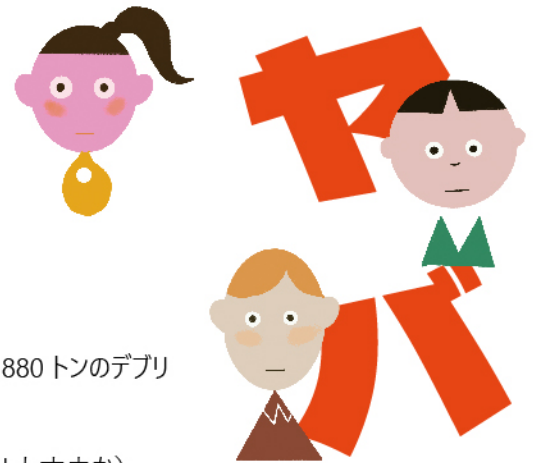
日本でも放射能の影響が矮小化されているのではないのでしょうか？

福島原発事故も過去の出来事として葬り去られようとしています。

福島事故から 14 年経った現在も、

・原子力緊急事態宣言は今なお発令中

- ・健康不安の拡がり（鼻血、体調不調、がん等）
- ・避難指示区域が今なお 309 km²（東京 23 区の約半分）
- ・帰還できない、帰還しない人たち、少なくとも 3 万人以上
- ・廃炉作業の停滞（取り出すデブリは 1 回目 0.7g 2 回目もわずか）全部で 880 トンのデブリ
- ・中間貯蔵の汚染土の処理問題、汚染水問題
- ・今なお海洋、大気中に放射性物質を放出（次の大地震で福島第一原発は大丈夫か）



既に核と共に生きている青森県民！青森県には沢山の原発施設があり、特に六ヶ所村には原子力施設の使用済燃料や
低レベル放射性廃棄物、高レベル廃棄物が貯蔵されています。この数字は 2025 年 4 月現在のものです。

大間原発 / 建設工事中

むつ中間貯蔵センター 原子力船むつ / 原子炉室一括 撤去物 1 体
雑固体等 672 本

東通原発 / 雑固体廃棄物等 15,364 本
使用済制御棒 67 本
使用済チャンネルボックス 600 本 その他

六ヶ所核燃サイクル施設

- ・再処理工場 / ガラス固化体 346 本
雑固体廃棄物等 61,762 本
チャンネルボックス等 252 本
- ・ウラン濃縮工場 / 固化体廃棄物 16,769 本（200 ℓ ドラム缶換算）
- ・低レベル放射性廃棄物埋設センター / ドラム缶 375,619 本（2025.7）
- ・高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター / ガラス固化体 1,830 本（英仏より返還）
- ・MOX 燃料工場

